

授業の **U D** ユニバーサルデザイン の視点を取り入れた
授業づくりについて



青森県総合学校教育センター

平成29年3月

1

授業のユニバーサルデザインの の視点を取り入れた授業とは

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（平成24年文部科学省）」によると、「学習面又は行動面で著しい困難を示す」子どもの割合は約6.5%でした。つまり、通常の学級には、約2, 3名の発達障害が疑われる子どもがおり、困難を抱えながら学校生活を送っていることが考えられます。特別支援教育では、子どもの困難さを取り除くために、個別のアプローチが実践・研究され、その効果が実証されてきました。困難のある子どもたちに行う手立てを、最初から学級で行えば、子どもにとって、わかりやすい授業になります。このような考えの基、全国各地の学校では授業のユニバーサルデザインが取り組まれています。

授業のユニバーサルデザインとは、“発達障害の子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利な」支援”となります。それを踏まえ、授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業とは、学力の優劣や障害の有無にかかわらず、全ての子どもが楽しく「わかる・できる」ように工夫や配慮がなされた授業づくりであると捉えることができます。

2

インクルーシブ教育システムと 授業のユニバーサルデザイン

中央教育審議会は「障害者の権利に関する条約」に基づき、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進（平成24年7月）」を報告しました。この中で、「障害のある子どもと障害のない子ども、それぞれが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を

過ぎつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視点である。」と述べています。このことの実現のため、個別的な調整である「合理的配慮」とその基礎となる環境整備としての授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れることが求められています。

3 そもそもユニバーサルデザインとは

1985年、ロナルド・メイスが提唱した概念であり、「すべての年齢や能力の人々に対し、可能なかぎり、最大限に使いやすい製品や環境のデザイン」のことです。彼は、製品や建築などのデザインを最初から障害のある人、ない人、高齢者など、多様な人々の誰もが使いやすいものに設計すべきであると主張しました。そしてデザインに必要な7つの原則を提唱しています。

- (1) 誰でも公平に使えること
- (2) 使う上での自由度が高いこと
- (3) 使い方が簡単で、直観的に理解できること
- (4) 必要な情報がすぐに見つかること
- (5) うっかりミスや危険につながらないこと
- (6) 身体への負担が軽く、楽に使えること
- (7) 接近したり利用したりするために十分な大きさと広さが確保されていること

4

授業のユニバーサルデザインに 取り組むための視点

ここでは、当センターで行われた「授業のスタンダードづくりプロジェクト（H25～H26）」の成果と小貫（2016）の「授業UD達成のための授業階層に基づく視点モデル」を参考にしながら、授業のユニバーサルデザインに取り組むための視点を「学級づくり」「環境の整備」「授業づくり」の三つに分けて紹介します。授業のユニバーサルデザインには限定的な方法があるわけではないため、以下の視点を参考にしながら、自分の授業を振り返り、授業改善を図っていくことが大切です。

（1）学級づくり

クラス内の 理解促進	協同的な学習を促進するベースとなる視点です。理解のゆっくりさや失敗をからかう雰囲気がないか、「わからない」と言える雰囲気や失敗しても大丈夫と思える雰囲気があるかなどが視点となります。そのためにも、誰もが活躍できる場面、助け合う場面、お互いの良さを認め合える場面を設定していくことが大切です。
ルールの明確化	質問の仕方、意見の伝え方、話し合いの仕方など、学校生活のルールや授業中のきまりを明確にすることです。ルールの理解が苦手だったり、暗黙のルールがわからなかったりする子どもにとって、ルールを守り、成功体験を積むことにもつながります。

(2) 環境の整備

刺激の調整	掲示物や音など、授業の妨げとなりそうな刺激を減らすことで、周囲の刺激に反応しがちな子どもであっても、授業への参加がしやすくなることがあります。
場の構造化	学級で使う学習用具の置き場所や置き方が決まっている等、教室に一定の規則を持ち込んで、使いやすくするための視点です。
時間の構造化	見通しをもって活動に取り組むために、授業の流れや活動の手順を目に見える形で示すなどの工夫です。

(3) 授業づくり

焦点化	授業のねらいや活動を絞り込むことです。情報が多すぎると、大切なことがわからなくなってしまう。一時間の授業で何を教えるか、それを見極め、内容を焦点化し、授業構成をシンプルにすることが大切です。
展開の構造化	授業の焦点化に基づき、授業の進め方や説明の方法、何を体験させるかを決める等、授業の展開を構成しようとする視点です。
スモール ステップ化	達成までのプロセスに段階を作ることで、どの子どもも目標に到達しやすくなります。用意されたステップを使う子もいれば、使わなくても良い子どももいるといった選択の余地があるように工夫することも大切です。

視覚化	情報を「見える」ようにして伝達をスムーズにする工夫です。
感覚の活用	言葉だけの説明ではなく、図示する、イメージを伝える、身体を動かすなどの方法を用いて、理解を深める工夫をすることです。
共有化	ペアやグループで考えを伝え合ったり、教え合ったりすることです。理解がゆっくりな子どもは他の子どもの意見を聞きながら理解を進め、理解の早い子どもは他の子どもへ自分の意見をわかりやすく伝えることでより深い理解に到達できる可能性が高まります。
スパイラル化	教科教育の内容はスパイラル（反復）構造となっており、ある段階で学んだことは、次の発展した段階で再び必要となります。そのような教科の系統性の視点から、前の段階では理解が十分でなかったことや、理解はしたけれど再度の確認を行う必要のあることなどについて、復習していくことが大切です。
適用化／機能化	学んだことを机上の理解だけに収めず、別の課題に適用してみたり、生活の中で機能させてみたりすることで、本当の学習の成果として積み上げていこうとする視点です。



5

授業のユニバーサルデザインと 特別支援教育

授業のユニバーサルデザインは特別支援教育の立場から語られることが多いのですが、授業のユニバーサルデザインだけを行っていても、特別支援教育を行ったということにはなりません。石隈（2016）は、授業のユニバーサルデザインを一次的援助サービスと位置づけ、その上に、より特別な支援を導入するという心理的援助サービスを提唱しています（図1）。

この図が示すことは、授業のユニバーサルデザインを一次的援助サービスと捉え、発達障害等への対応を含めて、すべての子どもが共有する援助ニーズに応じていることです。中段の「二次的援助サービス」では、苦戦している一部の子どもへの教育的配慮などを行い、上段の「三次的援助サービス」では、「合理的配慮」を含む、個別の障害特性や発達段階に応じた支援を行っていきます。上段では、専門性のある教師が指導・助言にあたり、関係機関と連携したりすることが必要となってくることが考えられます。

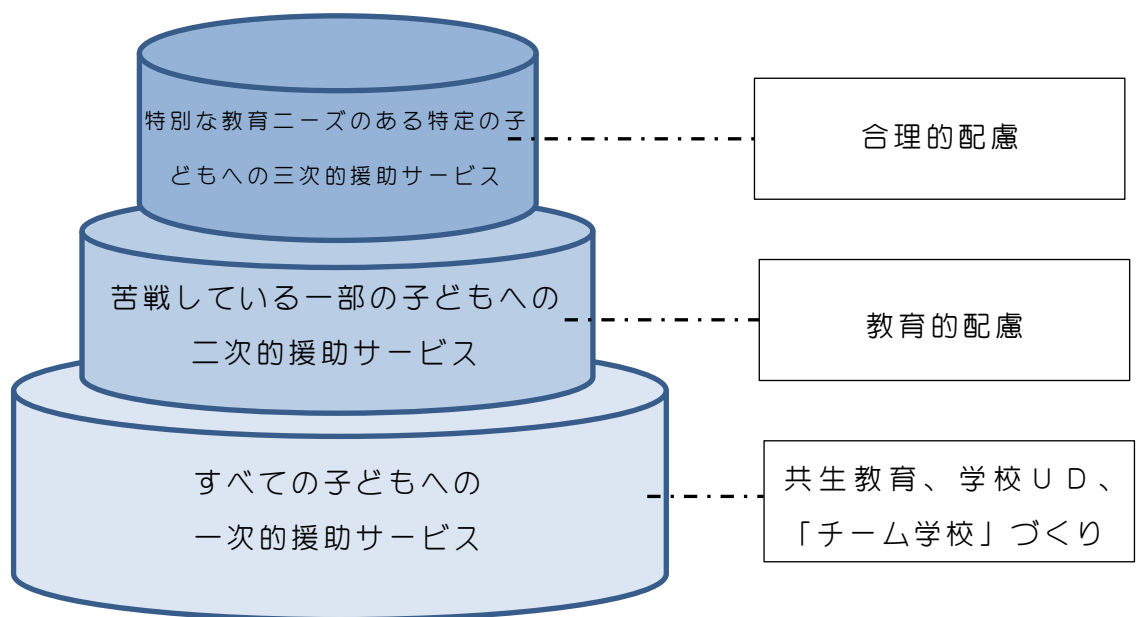


図1 インクルーシブ教育システム
3段階の心理教育的援助サービス

6

授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業チェックシートについて

「学校のユニバーサルデザインプロジェクト」では、授業のユニバーサルデザインに取り組む手立ての一つとして、当センターで行われた「授業のスタンダードづくりプロジェクト（H25～H26）」の成果や小貫（2016）の「授業UD達成のための授業階層に基づく視点モデル」を参考に、「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業チェックシート（小学校版、中学・高等学校版）」を作成しました（次頁）。

本チェックシートでは、授業のユニバーサルデザインに取り組むための視点を「学級づくり」「環境の整備」「授業づくり」の3つに分けて紹介しています。自分の授業を振り返ったり、先生同士で協議したりする際に、本チェックシートの視点や具体例を活用してみてください。なお、授業のユニバーサルデザインには限定的な方法があるわけではないため、指導や支援する際には、学級の実状や個々の児童生徒の実態、教科の特性等に応じて、どの項目が必要なのか、どんな場面で、どの程度使うことが効果的なのかなどを検討した上で活用してください。



「授業チェックシート」

制作：青森県総合学校教育センター 学校のユニバーサルデザインプロジェクト(H29.3)

【○：意識して取り組んでいる △：あまり意識して取り組んでいない -：取り組んでいない】



学級づくり	理解のゆっくりさや失敗をからかう雰囲気がなく、お互いにサポートし合うような学級づくりがなされている	
	学級内での約束事(発表の仕方や聴き方等)を決めている	
環境の整備	集中を妨げる可能性のある音や目に入る物などを調整している	
	黒板やまわりの掲示は、余計な情報(授業に関係のない情報)がない状態になっている	
	自分の持ち物やみんなで使う物の置き方や場所が決まっている	
	授業の流れや活動の手順を提示するなど、見通しがもてる工夫をしている	
授業づくり	本時のねらいや活動を絞り、児童にしっかりと伝えている	
	注目することを促してから指示を出している	
	1回の指示で一つの内容を伝えている	
	「これ」「それ」「あれ」「どれ」等の抽象的な表現を避け、具体的に指示している	
	授業の最後に1時間で学習した内容を整理し確認している	
	児童の活動に対して「いいね」「よくできたね」等の肯定的な言葉をかけている	
	絵や図等の視覚的な手がかりを用意している	
	板書の文字(大きさ)、チョークの色、配置等を工夫している	
	言葉だけの説明ではなく、図示する、演じる等の方法を用いて、理解を促す工夫をしている	
	ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている	
	達成までのプロセスに細やかな段階がある	
	ペア学習やグループ学習等の活動を取り入れ、学び合う機会を設けている	
教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどについて、復習する機会を設けている		
学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている		

※このチェックシートは、当センターにおけるこれまでの研究や授業UD化モデル(小貫、2016)を参考に作成しました。自分の授業を振り返ったり、先生同士で協議したりする際に活用してください。



授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた

「授業チェックシート」

中学・高等学校版

制作：青森県総合学校教育センター 学校のユニバーサルデザインプロジェクト(H29.3)

【○：意識して取り組んでいる △：あまり意識して取り組んでいない -：取り組んでいない】

クラスづくり	理解のゆっくりさや失敗をからかう雰囲気がなく、お互いにサポートし合うようなクラスづくりがなされている	
	学習の約束事(休み時間の中に次時の授業の準備等)を決めている	
環境の整備	集中を妨げる可能性のある音や目に入る物などを調整している	
	黒板やまわりの掲示は、余計な情報(授業に関係のない情報)がない状態になっている	
	共有で使う物の置き方や場所が決まっている	
	授業の流れや活動の手順を提示するなど、見通しがもてる工夫をしている	
授業づくり	本時のねらいや活動を絞り、生徒にしっかりと伝えている	
	注目することを促してから指示を出している	
	1回の指示で一つの内容を伝えている	
	「これ」「それ」「あれ」「どれ」等の抽象的な表現を避け、具体的に指示している	
	授業の最後に1時間で学習した内容を整理し確認している	
	生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」等の肯定的な言葉をかけている	
	絵や図等の視覚的な手がかりを用意している	
	板書の文字(大きさ)、チョークの色、配置等を工夫している	
	言葉だけの説明ではなく、図示する、演じる等の方法を用いて、理解を促す工夫をしている	
	ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている	
	達成までのプロセスに細やかな段階がある	
	ペア学習やグループ学習等の活動を取り入れ、学び合う機会を設けている	
教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどについて、復習する機会を設けている		
学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている		

※このチェックシートは、当センターにおけるこれまでの研究や授業UD化モデル(小貫、2016)を参考に作成しました。自分の授業を振り返ったり、先生同士で協議したりする際に活用してください。

<引用・参考文献>

- 1 文部科学省 2012 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm
- 2 中央教育審議会 2012 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm
- 3 授業のスタンダードづくりプロジェクト 2014 「今日からできる「わかる」授業～授業のチェックポイント～」 青森県総合学校教育センター
- 4 小貫悟 2016 「アクティブ・ラーニングと授業のユニバーサルデザインーアクティブ・ラーニング自体をUD化するための<視点モデル>と<授業設計基本フレーム>の提案ー」『LD研究 第25巻第4号』, pp. 423-430
- 5 石隈利紀 2016 「苦戦している子どもの理解と授業UDの効果」『授業UD研究 第2号 No.02』, pp. 48-53
- 6 佐藤慎二 2014 『実践 通常学級ユニバーサルデザイン <1> 学級づくりのポイントと問題行動への対応』 東洋館出版社

平成28年度「学校のユニバーサルデザインプロジェクト」

所 属	職	氏 名
青森県総合学校教育センター特別支援教育課	課 長	島 野 絵理子
青森県総合学校教育センター特別支援教育課	指導主事	成 田 章
青森県総合学校教育センター特別支援教育課	指導主事	千 葉 新 一
青森県総合学校教育センター教育相談課	指導主事	笠 井 麻 喜
青森県総合学校教育センター特別支援教育課	研 究 員	尾 形 克 幸
青森県総合学校教育センター教育相談課	研 究 員	市 岡 紀 恵

青森県総合学校教育センター

〒030-0123

青森市大字大矢沢字野田80-2

電 話 017-764-1997 (代表)

F A X 017-728-6351

特別支援教育課 017-764-1993 教育相談課 017-764-1990